

平成30年度 次世代省エネ建材支援事業 【潜熱蓄熱建材】 設計チェックシート

※ 記載日付

※ 施主名(施工場所)

※ 施工企業名

※ 担当者名

印

No.	確認項目	確認基準	確認結果
1	利用について	下記利用方法①②③いずれかであること	
2	利用方法①	「開口部からの進入日射熱利用」 真南±30° の方位に面する集熱開口部の面積が、対象室の床面積の10%以上ある	
	利用方法②	「温水式床暖房放熱利用」 太陽熱利用温水式床暖房（個別空調）を利用する	
	利用方法③	「屋根空気集熱式ソーラーシステム利用」 屋根空気熱集熱式ソーラーシステム（全館空調）を利用する	
3	製品の蓄熱量・潜熱量(Kj/m <sup>2</sup> )	各利用方法における蓄熱量は90kJ/m <sup>2</sup> であること	
4		各利用方法における潜熱量は45kJ/m <sup>2</sup> であること	
5		製品を重ね合わせは可。総製品厚みが25mm以内であること	
6	設置する製品の総蓄熱量	下記、設置する製品の総蓄熱量①②いずれかを満たすこと	
7	設置する製品の総蓄熱量①	利用方法①②の場合、施工される製品の総蓄熱量が、対象室の床面積に192kJを乗じた数値よりりも大きいこと	製品利用面積 ×90kJ
			0
			床面積 ×192kJ
8	設置する製品の総蓄熱量②	利用方法③の場合、施工される製品の総蓄熱量が、述床面積に80kJを乗じた数値よりりも大きいこと	0
			製品利用面積 ×45kJ
			0
	床面積	×80kJ	0
9	対象室の断熱	規定された断熱基準より高いこと	
10	対象室の該当断熱基準	住宅性能表示基準の温熱環境・エネルギー消費量に関する ことにおいて、断熱等性能基準が4であること	
		フラット35Sの省エネルギー基準を満たしていること。但し中古タイプ基準は対象外	
		長期優良住宅認定基準の省エネルギー性において、断熱等性能等級が4であること	
		低炭素建築物認定住宅であること	
		断熱材や開口部の仕様がわかる建築時の仕様書等により証明できること	